

「立ち上がり、歩きなさい」 -使徒行伝講解説教 7-

使徒言行録

第3章 1節～10節

説教 本庄 侑子 牧師

教会が立って間もない頃、ペトロとヨハネは生まれながら足の不自由な男と出会いました。その人は、生まれた時から、多くの人が当たり前のようになっていることができませんでした。今も働くことができず、物乞いをして生活せざるを得ませんでした。当時の社会では施しが律法に定められていましたから、人々はこの人を見ると、すすんで施しをしたと思います。そういう意味では生活は守られていたでしょう。

しかし、どうやっても手に入らなかったものがありました。友達です。人との関わりはありました。毎日、神殿の前まで運んでもらっていましたから。しかし、本当の意味で共に生きる人、自分のことを一人の人間として見つめ、隣に座ってくれる友達がいませんでした。

また、病気や障害、不幸は、その人や家族の罪に対する罰だ、という因果応報の考えが根強い社会でした。成長するにつれて、彼の心には憎々しい思いが大きくなっていったことでしょう。私がこうなのは自分が悪かったからだ。いや、私をこんな風に生んだ家族のせいだ、と。

彼は、「美しい門」の側に「運ばれ」「置いてもらって」(2節)いました。「美しい門」は、神殿の外から内側の庭に入るための門で、美しい細工が施されていました。男は、人々が颯爽と美しい門を歩いていく姿を、足元から見上げ続けてきました。自分だけその中に入れない。この足のせいで一生入れない。何が悪かったんだろう。どうしていたら良かったんだろう。そんな、どうしようもなく重苦しい問いを引きずりながら、門の前に運ばれ、置かれるような毎日を40年以上も送ってきたのです。

しかし聖書は伝えます。教会が立った時、神が真っ先に向かったのは、その人の元だったと。彼は生まれて初めて、自分のことを「じっと見る」(4節)まなざしと出会い、これまで聞いたことのない言葉を耳にしました。「わたしたちを見なさい。」(4節)「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」(6節)

「名」は、聖書においては、名前を持つ人自身を表します。ペトロはこう言ったのです。わたしたちが持っているイエス・キリストを見なさい。キリストが何をしてくださったかを、しっかりと見なさい。あなたが期待しているものはないが、あなたに本当に必要なものを持っ

ている。あなたもこの方に生かされなさい。

男はずっと苦しんできました。不自由な足を呪い、誰かを悪者にしないではいられませんでした。しかし、神はイエス・キリストをお遣わしになりました。生まれつき目の見えない人に対して、イエス様は叫ばれました。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」(ヨハネによる福音書9章4節)そして、悪者探しをし、罪をなすりつけ合う私たちの憎しみの連鎖を断ち切るために、全ての罪を代わりに背負って死に、復活してくださいました。

イエス・キリストを見つめていると、キリストの声が聞こえてきます。あなたが今のあなたであるのは誰のせいでもない。神の業が現れるためだ。たとえそれが信じられずに暴れ出すあなたや人の罪が、あなたの人生をめちゃくちゃにしてくるように見えても、それらに運ばれ、置かれるようにして生きる必要はない。罪の力は私が全て打ち砕いた。あなたを包んでいるのは神の愛以外の何ものでもない。あなたの人生は神のもの。神に任せていなさい。

ペトロは、右手を取って男を立ち上がらせました。歩けるようになった足で、男が真っ先にしたことは神を賛美することでした。彼の人生に、全く新しい視点、天におられる神が到来し、命の神に向かって喜び溢れたからです。

彼はまた、ペトロやヨハネと一緒に神殿の境内に入って行きました。同じ神を見上げる教会の仲間に加わり、一緒に生きていくようになりました。人生の不条理を時に嘆きながら、それでも、神の計画の中にあることを信じていていんだと励まし、祈り合う仲間、死によっても断たれることのない永遠の友ができた。それがこの時、彼の人生に起こった本当の奇跡でした。

同じ奇跡が今、あなたの人生にも到来しています。もう呪われた人生のようにして生きることはありません。あなたを選んで、世界でたった一つの人生を与えてくださった神に自分の一切をお任せして、神の業が自分の人生に現されていくことを信じて、永遠の友たちと共に神に向かって立ち上がり、未来に歩み出して良い。

「イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

(記 本庄侑子)